

ウェルス・マネジメント株式会社
2026年3月期 第2四半期 決算補足説明資料
(インタビュー形式での資料となります)

Q：第2四半期を終え、セグメント別での計画に対する進捗状況、成果、課題は何ですか。



千野：ホテル運営事業についてはシックスセンス 京都、バンヤンツリー・東山 京都の稼働の安定化に伴い、売上・利益とも拡大いたしました。

AM事業・不動産事業については前年同期に比べ運用資産残高が増加したことにより、期中報酬が拡大いたしました。セグメント全体としては減収となりました。

前年はシックスセンス 京都の譲渡が第2四半期に完了いたしましたが、当期は第2四半期に予定しておりましたバンヤンツリー・東山 京都の譲渡が10月24日付開示のとおり期ずれとなり、当該利益が第3四半期に計上されることが、その主要因です。

Q：例年、第3四半期、特に第4四半期に業績が偏りますが、今期については、どのような業績積み上がりとなりますか。

千野：開発案件につきましては、期初にお伝えのとおり（5月23日付決算説明資料）、開発費用の増加対策として、まずはエンジニアリング機能の内製化等によるコスト削減を推進してまいりました。また、大型の開発を伴わないリブランドに注力し、10月にホリデイ・イン&スイーツ札幌大通公園をリブランドオープンいたしました。

引き続き取組みを進めて参りますが、開発費用のコスト削減などに一定の効果があり、今年度後半にリキャップ案件が具体化する見込みです。

Q：通期業績予想の達成に向けて、ポイントとなるプロジェクトを教えてください。

千野：10月24日付で開示したバンヤンツリー・東山 京都に加え、その他の稼働中の物件、さらに開発中のプロジェクトのリキャップの具体化がポイントとなります。

Q：10月24日に第一生命ホールディングスとの資本業務提携が開示されました。この目的とこの提携を踏まえたウェルス・マネジメントの今後の展開はどのようなになりますか。

千野：本資本業務提携は、両社グループが有する経営基盤やノウハウを相互に活用し、企業価値の向上を図ることを目的としております。第一生命グループが推進する、資産形成・承継事業や非保険領域の拡大を軸とした「保険サービス業」への進化および不動産事業の拡大方針のもと、当社が有する世界的ホテルオペレーターや国内外の投資家、金融機関、不動産会社、建設会社等との多彩なネットワークを活かし、成長が見込まれるホテル市場での収益機会を捉えることで、不動産バリューチェーンの強化と不動産事業の拡大を目指しています。



今後は、当社のホテル開発・運営に関する豊富なネットワークとノウハウを活かし、第一生命グループと連携して「資産循環型ビジネスモデル」を強化し、事業成長を加速させてまいります。両社の協業を通じて、ホテル開発における共同プロジェクトの推進や、人材交流を通じた知見やスキルの相互補完にも取り組み、より高付加価値なホテル・不動産事業の創出を行ってまいります。また、良質なホテル空間の提供による地方創生や地域社会の活性化など、社会的価値の創出にも取り組んでいく予定です。

さらに、これまでどおり当社グループが掲げる『快適な時間と空間づくりを通して、日本の魅力と文化を「体験価値」として提供し、あらゆるお客さまに感動と安定的な繁栄をお届けすることで、豊かな社会の発展に貢献する』というグループ理念のもと、不動産の取得・開発・運用・売却までを一気通貫で展開してまいります。

Q：サムティ社の資本業務提携以降、中期経営計画が示させていませんが、今後、中計の開示をされる予定はありますか。

千野：今後、第一生命グループとの具体的な協議を進めたうえで、しかるべき時期に中期経営計画を発表する予定です。

Q：今後、本提携を踏まえた新たな成長戦略を描かれる中で、トータルシェアホルダーズリターン方針は、どのようなになりますか。配当、株主優待についてそれぞれ教えてください。

千野：トータルシェアホルダーズリターンを重要視する方針に変わりありません。第一生命ホールディングスとの資本業務提携により、両社グループのノウハウを相互に活用し、企業価値の向上を図ってまいります。

配当については今後も増配基調を維持し、安定的な配当性向を目指してまいります。また、株主優待についても優待制度は堅持し、さらにより良い制度へと拡充に努めてまいります。